③【急変時の対応】

課題	根本の要因(箇条書き)
平常時より急変時の備え(相談先	・医療支援が必要な方の、家族が介護困難になった場合において、レスパイトなど至急入院できる病院がない事への不安
や本人情報の明確化等)を行う必	は多くあり。
要がある。	・身寄りのない認知症の方が、急に徘徊しだすなど BPSD の出現などにより、在宅困難と思われる差に関し、症状が顕著だとショートステイも利用できず、精神科の入院ができる場所があるのか、精神科の入院などの手続きも本人だけでは当然
	こうヨートヘナイも利用できり、精神科の人院ができる場所があるのが、精神科の人院などの子航さも本人だりでは自然 できないなどの不安。
	・救急搬送時に添乗者がいないと搬送時の病院が決まらず、ケアマネの添乗を求められることが多々ある。独居の方の急
	変時の対応に不安がある。
	・例えば、独居の要支援の方の急変時など、区分変更が確定するまでに時間が必要なため、必要なサービスを至急に利用
	することが難しく、不便でリスキーな生活を余儀なくされることがある。
	・何がどのようになったら、どこに連絡をするのかを伝えている。本人のタイムリーな体調や対応(水分摂取)、服薬など
	を共有している。 ・救急医療情報キットの普及が少ない。もしくはいざという時活用されない時がある。
	・仕組みがあるケースでも、そこに含まれる情報が更新されていない。
	・休日の対応に対する社会資源の不足。
	・急変時の相談先や連絡のルートが、本人・家族、チーム全体で共有されているとは限らない。
	・急変時に慌ててしまうと、救急車を呼ぶ。
	・土日の対応がマンパワーに不足で土日の緊急時に不安。
	・救急医療情報キットの普及が少ない。
	・本人や家族が急変の予測をしづらい。
自分で意思決定ができるうちに、	・ICT等を利用した急変時の対応はできないか?
その内容を表明する必要がある。	・利用者と家族は、急変時のことは考えたくない。関係者は話題に出しにくい。が現在は訪問医師が伝える事が多く決定 することが増えており共有し気持ちへのフォローアップを行っている。(訪問介護として) どちらかというと医師や看護
	より利用者側として対応しその心配ごとなどを知り、伝える役目と考えている。
	・意思決定の選択肢として何があるか知らない。
	・意思決定に関わる話題に対する遠慮から、いざというときに迷いが生じる。
	・お互いの関係性ができてから話ができるとよいが、人によってタイミングがそれぞれ異なる。
	・本人に告知してほしくないという家族もいる。
	・利用者と家族は、急変時のことは考えたくない。関係者は話題に出しにくい。
	・意思決定の選択肢として何があるか知らない。
	・市民へ意思決定に関しての啓発が不足している。